



カンボジアの子どもたちに教育を

2008年1月 No. 24

カンボジア便り

1 砂場とバレーボールコートがオープンしました。

前号のニュースレターで開場が待たれているとお伝えした、砂場（ジャンピングスペースと言います）とバレーボールコートが昨年11月にオープンしました。早速、体育の授業や放課後に使われています。子どもたちの元気に活躍している様子をお届けします。

～目次～

カンボジア便り	
砂場とバレーボールコート	
オープン	1
幼稚園プログラム	2
第三回「ビビンの会」	2
スタッフ紹介	3
イジェウさん、	
定例ミーティングへ	4
事務連絡	4



カー杯のハイジャンプ



良い記録が出たかな？



バレーボールは高学年の生徒が対象です

2 幼稚園開設支援プログラムが動き出しました。

リティ氏の事故と病気で遅れていた幼稚園プロジェクトが動き始めています。6月に一度見積りを取りましたが、カンボジアでは建築資材と工賃の値上がりが急激に進んでいるため、今回新たに見積りを取り直しました。これをリティ氏が知り合いの別の建設会社に確認し、更に最近建てられた別の建物の面積当たり単価とも比較し、妥当な価格と判断しましたので、日本事務局も1月に入ってこの見積りを承認し、リティ氏と建設業者が契約を結びました。

総額19,300ドル、110円/ドルとして212万円になります。当初の見積り14,300ドルからは5,000ドルも値上がりしてしまい、誠に申し訳ございません。ただ、幸い円高が進んでいるため、円での値上がりは33万円で収まっております。

なお、この見積りには、幼稚園を管理するルセイサン小学校の校長と、幼稚園開設に大変熱心なプッカー村のお寺の主任僧侶の連帯サインも頂いています。完成期日はこれから詰める予定です。(大澤)

第3回ビビンの会 22名のお客さまを迎えて

12月22日(土)、「第3回ビビンの会~友だち作ろう~」をアジア文化会館(ABK)の教室で開催しました。14名の韓国人、2名の中国人、6名の日本人のお客様が参加して下さり、スタッフを含めると計33名と、これまでで一番賑やかな会となりました。またお客様の中にはNPO活動と日本人との交流に関心を持たれて、わざわざ韓国から足を運んで下さった方もいて、スタッフも会が始まる前から少し興奮気味でした。

プログラムの最初は自己紹介ならぬ他己紹介です。今回は5つのグループに分かれて、各グループ内でペアを組みパートナーの紹介をしてもらいました。私の所属したグループは、韓国人2名、中国人1名、日本人3名でした。韓国人のあるお客様は2回目の参加でしたが、前回よりも日本語がとても上達されていたのに驚きました。中国人の女性のお客様は、来日して間もない方でしたが、とてもフレンドリー(ハイテンション?)な韓国人男性のパートナーに若干とまどいながらも、一生懸命紹介して下さいました。紹介の仕方にも発表者の個性がよく表れていて面白かったです。

途中40分ほどお茶の時間と称したフリートークを挟んで、次にメインイベントであるグループディスカッションを行いました。グループリーダーの下、日本、韓国、中国の文化の違いについて話し合い、最後に各グループの代表者に発表してもらいました。私のグループは、いろいろな場面での「会計の仕方」について話し合いました。食事に行ったとき、日本で一般的な「ワリカン」は韓国や中国ではほとんど見られず、もし「ワリカンにしよう」などと言ったものなら「冷たい人」と思われ

るということでした。無知は怖いと思った瞬間でした。またカップルでデートに行く場合、食事に限らず映画や電車代まで、ほとんど男性が払うということでした。グループにいた韓国人の男性の方が「日本がいい！」とおっしゃっていたのもうなずけます。他のグループの発表も、各国のお正月の過ごし方や結婚式のスタイル、また人生の最期、お墓に入るときの違い、韓国人から見た日本の不思議なところなどテーマもバラエティに富んだユニークなものでした。

約 2 時間半のビビンの会終了後、同じ会場で行ったお酒を交えた懇親会には 17 名が参加しました。文化的な要素の強いビビンの会とはまた違った、よりリラックスした雰囲気の中で参加者はさらなる交流を楽しみました。旅行の話、食べ物の話、仕事の話、語学の勉強の話など話題は尽きることが無く、予定していた 2 時間を越えても誰も席を立とうとはせず時間が経つのを忘れていました。国籍も年齢も職業もさまざまな私たちが一つのテーブルを囲んで団欒できることにとても幸せを感じました。参加して下さったお客様、本当にありがとうございました。

「この交流が翼となって国境を越えた交流が深まりますように・・・」
ニュースレター読者のみなさまもどうぞご参加下さい。(湯田)

スタッフ紹介

社会人 矢崎芽生

YOGA が近年人気を集めていますが、YOGA の意味をご存知ですか？

横道から入ってしまいました。まずは自己紹介ということで、私の名前は「芽生 (メイ)」と言います。普段は公認会計士・税理士として仕事をしています。YOGA もやっています。

さて、YOGA の意味です。YOGA には「つながる」という意味があります。日韓アジア基金のカウンターパートの「ポンロック・タマイ：新しい芽」との名前「つながり」、パンフレットを見て、募集欄に「公認会計士の方募集」とのことで、仕事「つながり」。去年の 6 月、たまたま参加した NPO・NGO に参加したい人向けに行われたイベントで、日韓アジア基金と出会ったのですが、このつながりは運命だったんだ！と勝手に思っています。イベントに参加した当時は、実は韓国にもカンボジアにも、はたまたアジアにも特に強い思い入れがあった訳ではありませんでした。しかしその出会いは、アジアに対する興味という「つながり」を私に与えてくれました。

この運命の出会いを大切にし、韓国、カンボジアをはじめアジアの人々ともっともっと「つながって」いけたら良いなと思っています。また専門家として勉強してきたことが役に立つのであれば、なおうれしいと思っています。これからどうぞよろしく願いいたします。



イジェウさん、定例ミーティングに参加

韓国側スタッフのイジェウさんが、定例ミーティングに参加されました。定例ミーティングとは、毎月一回おこなっている理事会も兼ねたスタッフ会議で、ここで活動方針や具体的な展開を相談しています。イジェウさんは、前にも書きましたが、ソウル大学院生でコンピューター工学専攻、交換研究員として来日中です。イジェウさんは日本語が分からないので、スタッフの韓国語通訳を通じて、あるいは英語で話すしかないので、積極的に発言されました。とくに、ビビンの会について、「韓国人は日本の映画、ドラマ、漫画などに関心があって、日本人と仲良くなりたいたいと思っている人は多い。まず親しくなって、それから少しずつ歴史問題や政治問題も話し合うようにするといい」というご意見でした。

終了後席を変えて、韓国側スタッフの状況や秋にアメリカに留学するイジェウさんの今後の研究課題から、韓国の進学・就職状況や新大統領の評判など、十年の知己のように話はずきませんでした。(波多野)

07年11月～08年1月15日までに会費・ご寄付を下さった方

(敬称略・別枠を除き五十音順)

縣 勇兵	佐藤 民子	波多野 淑子	堀内 和子	三藤 雅道	若宮 英生
油谷 友加	背山 悦子	樋口 晴太郎	堀川 清	森 健造	若宮 康夫
今西 淳子	佃 吉一	樋口 督水	堀場 秀亨	山口 忠正	渡辺 京子
岩見 豊子	中川 敦司	平島 清行	松田 明美	山越 栄子	渡部 友理恵
大澤 龍	中田 邦雄	藤井 猛史	三門 房子	吉崎 秀一	
金本 容子	並木 陽子	細川 敦子	満井 啓二	李 香	
日本聖公会 川越キリスト教会		安住東西センター			

ご入会・ご寄付のお願い

活動会員：年会費 5,000円(学生、未成年者 2,000円)
 賛助会員：年会費1口5,000円(学生、未成年者1口2,000円)
 法人会員：年会費1口10万円
 ご寄付：2,000円以上おいくらでも

< 郵便局振替口座番号 >
 振込口座 00180-2-25153
 口座名義 日韓アジア基金

- ・活動会員：活動に積極的にご参加頂ける方。総会での議決権がございます。
- ・賛助会員：定期的にご支援頂ける方

ご支援下さった方には「日韓アジア基金ニュースレター」をお届けいたします。

国内経費は全額スタッフ有志の寄付によっており、外部の方からのご支援は全てカンボジアに送っております。

<お問合せ先>

〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-12-13 アジア文化会館(ABK)内
 Tel:090-4456-2942(庶務・会計担当 大澤) FAX:03-3946-7599(ABK)
 E-メール: jkaf@ml.infoseek.co.jp HP: iloveasiafund.com/japan/

発行人特定非営利活動法人日韓アジア基金・日本 代表理事江本哲也